KBS REPORT





HIGHLIGHTS

対談 P2-5

ESSECビジネススクール アショック・ソム教授 × 浅川和宏教授 対談

教員紹介 P10-11

「医療と健康の経済学」

後藤 励准教授

「発見装置としてのゲーム理論: 遊戲の理論ではなく、理論の遊戲でもなく」 渡邊 直樹 准教授

1. EMBA グローバル経営 C ビエール・ドゥソージ教授 (HEC Paris) 2. 特別講演 オランダ王国前首相 ヤン・ペーター・バルケネンデ氏 3. 第 61 回高等経営学講座 バーラット・アナンド教授 (ハーバード・ビジネス・スケール)



グローバル時代のKBS

慶應義塾大学大学院経営管理研究科 委員長 慶應義塾大学ビジネス・スクール 校長

河野 宏和



新年度に入り、4月にアメリカ、5月はベトナムとシンガポール、6月にヨーロッパ、7月は韓国へ出かけてきました。認証団体の国際会議に参加し、世界各国のビジネススクールのトップと話していると、各国のトップスクールが様々な変革に取り組み、標準化や国際連携もそれらを先取りすべく進められていく様子を目の当たりにします。KBSもその流れに遅れないよう努めていますが、日本のビジネススクール教育は、中国や韓国の勢いに押されがちであることを痛感します。

リーダーシップを身につけるには、異業種・ 異職種のメンバーと切磋琢磨するだけでなく、 異文化と接して理解を深めることが不可欠 です。日本語を用いて日本人だけで行われ る学習や仕事の環境は、多くの日本人にとっ て快適ですが、そこに安住していてはアジア でリーダーとなっていくことはできません。大切 なことは、どんな環境でも堂々と自分の考えを 主張し周囲の人を説得していける国際感覚 と人間力です。グローバル対応というと、すぐ に英語化と結びつけて考えがちですが、言 語はあくまでも手段です。

そのために、KBSではここ数年でIP (International Exchange Program) の提携校を50校に増やし、毎年50名近くの留学生を世界のトップスクールから受け入れています。授業も、IP関連科目を中心に、全8領域で、計16の専門科目が英語で提供されています。一方で、現状ではKBSからIP(およびDD:Double Degree Program)で海外へ留学する学生は毎年20~25名に留まっています。今後は、IPに参加する学生を増やすためのサポートをさらに充実させると同時に、IP科目の拡充・体系化を進めた上で、英語で学ぶ学生の受け入れを考える必

要があると感じています。多様な文化が共存 する環境の下、言語の壁を越えて議論を繰 り返す体験が、これからのビジネスで活躍す る人材には不可欠です。

また、日本に立地するビジネススクールとし て決して忘れてはならない基本要件は、グ ローバル環境における日本の役割や課題を 深く考え体系的に発信していくことです。環 境、高齢化、防災問題などにいち早く直面 してきた日本は、「課題先進国」と言われて きました。日本の企業が発展の過程で工夫 してきた施策、現在直面している課題、今 後に向けての展望を、もっと堂々と世界に 発信していく必要があります。同時に、日本 の経営に内在する文化的な特徴、例えば attention to quality, respect to seniors, punctuality、long-term perspectiveなどは、 自信をもって世界に伝えていくべき特徴で す。英語が苦手だからとそうした特徴を発信 せずにいると、世界は日本の良い点に気づく ことができず、大きな損失となります。残念な がらそのことを海外へ出かける度に痛切に感 じます。

日本のトップスクールとして、日本の経営を深く研究して成果を発信する研究センターを設立し、そこに日本に関心を持つ研究者や学生が世界中から集まってくる。彼らと共に学ぶことで、学生が国際感覚を身に付け、日本の経営の特徴を世界に伝えていく。そんな循環を回していくことが、研究と教育の連携として不可欠です。KBSが日本の将来を担うリーダーを育成し、アジアでトップの地位を築いていくため、多くのハードルがあることは理解していますが、KBSコミュニティ全体として発展の基盤を作りたく、皆様の御支援をお願いします。

略歴

慶應義塾大学大学院工学研究科博 士課程、同大学大学院経営管理研究 科助手、助教授を経て1998年より慶 應義塾大学大学院経営管理研究科 教授。2009年10月より研究科委員 長、ビジネス・スクール校長。専門は生 産管理、生産マネジメント。工学博士。 AAPBS (アジア太平洋ビジネススクー ル協会) 2012年会長。AACSB Asia-Pacific Advisory Council Member, EFMD Board of Trustees, EQUIS Committee Member, APIEMS Fellow and Founding Board Member、日本経営工学会会長、IEレ ビュー誌編集委員長、TPM優秀賞審 査委員などを務める。



AAPBS/KBS Case Workshop



ランダ王国前首相バルケネンデ氏

最近の動向 (2016年3月~8月)

KBS REPORT Vol.13発行

2016年3月	KBS REPORT Vol.12発行
	平成27 (2015) 年度学位授与式
2016年4月	平成28 (2016) 年度入学式
	週末集中セミナー「経営戦略集中コース」
2016年5月	2016年度第1回MBAオープンキャンパス (入試説明会・授業見学会)
	週末集中セミナー「生産システム革新集中コース」
2016年6月	特別講演会(オランダ王国前首相ヤン・ペーター・バルケネンデ氏)
2016年7月	2017年度新卒学生選抜制度入試
	AAPBS/KBSケース・ワークショップ開催
	第61回高等経営学講座
2016年8月	特別公開講座 (ハーバード・ビジネス・スクール バーラット・アナンド教授)
	KBS同窓会第3回ホームカミング

河野研究科委員長がEFMDボードメンバーに選出されました

世界最大のビジネススクール認証機関であるEuropean Foundation for Management Development (EFMD) 年次総会 下に収めるビジネススクール認証機関の最高役員組織の一角を (6月14日開催)で、河野宏和研究科委員長をBoard Member (ボー ドメンバー。20名いる理事の一人)に選出する議案が提出され承 も大変意義深いものがあります。 認されました。

日本人として初めてのボードメンバー選出で、83か国862校を傘 KBSの河野委員長が担うことになり、日本にとっても本学にとって

AAPBS/KBS Case Workshop 2016開催報告

去る7月14日(木)·15日(金)の2日間の日程で、AAPBS/KBS カッションが行われました。 Case Workshop 2016がKBSを会場として開催されました。

のグローバルな普及を目指すAAPBS(Association of Asia-Pacific Business Schools)と、KBSとのコラボレーションによるワークショッ プで、日本を含む合計7ヶ国から23名の参加を得ました。

初日はKBSの浅川教授が、ケース授業計画、授業運営について、 自著のケースを用いて双方向でワークショップを進めました。受講 者が教員役と学生役を担当する模擬授業の実施を通じて、より効 果的な授業運営や、研究とケース開発の関係性など、幅広いディス

2日目は、徳島文理大学の竹内教授による、ケースメソッド教育 アジア太平洋地域におけるケースメソッド教育の発展とケース の組織的な定着・発展についてのディスカッションが行われまし た。ケースメソッド教育の将来、遠隔ケースディスカッション、ケース メソッドの深化と普及の関係など、今後を見据えた広範な議論が 交わされました。また、初日に使用したケースと関係の深い日産自 動車株式会社を訪問し、同社とルノーとの提携の歴史と今後の展 開についてのプレゼンテーション並びに質疑応答が行われました。 受講者からは今回のワークショップ参加によって、ケースメソッドに 関する総合的な理解を深めることができた等、高い評価を得ました。

オランダ王国前首相バルケネンデ氏 特別講演会 開催報告

6月22日(水)にオランダ王国前首相バルケネンデ氏が来校しました。 今回の訪問は、本年3月にExecutive MBAプログラムの学生が「海外 フィールドA」の授業でオランダ企業を訪問したことがきっかけとなり実 現したものです。

他研究科の学生を含む70名を超える学生が集まるなか、同氏は 「持続可能性と経済発展」の講演題目で約30分間講演を行い、講演 後は学生たちと熱心に意見交換を行いました。

講演で同氏はまずオランダの地理や歴史、産業構造について紹 介した後、首相在任中から推進しているSustainable Development Goals (SDGs) ならびにDutch Sustainable Growth Coalition

(DSGC)の取り組みについて解説、持続可能な経済発展のためには "Reinvent" · "Realizing reforms" · "Innovation" · "Sustainability": "International Mindset" の5つのキー ワードに基づく行動が大切であることを豊富な実例を交えながら説明 し、地球規模の取り組みの必要性を訴えました。

バルケネンデ氏は首相在任中にオランダの社会・経済政策に多大 な成果を残され、また、大学教授としてもヒューマニティ・倫理の分野 における教育・研究に関しても著しい業績を残されています。そのよう な功績から2009年10月25日に慶應義塾大学は同氏に名誉博士号を 授与しています。



ESSECビジネススクール アショック・ソム教授 × 浅川和宏教授 対談

浅川:最初にご自身の経歴や、現在の 状況など聞かせていただけますか。

ソム:このような機会をつくってい ただき、ありがとうございます。名 前はアショック・ソム、生まれはイ ンドですが、その後フランスに移り ました。現在、フランスで最も権威 あるグランゼコールのひとつである ESSECビジネススクールの経営学 部門で、フルタイムの教授をつとめ ています。ESSECで15年働いてい ますが、ESSECとの最初の出会い は、インド経営大学院(IIM)アー メダバード校からの博士課程交換 学生として訪れたときでした。その あと客員教員として招かれ、次い で准教授、フルタイムの教授、最大 の部門である経営学部門のChair、 Global MBA (GMBA) プログラム のDeanをつとめてきました。

浅川:インド出身の学者の方々の多 くは、米国や英国で博士号をとって 彼の地で教職につく、というのが 一般的ではないでしょうか。世界の 国々のなかから、フランスを学者と して活動する地に選んだ理由を聞か せてください。

ソム: おっしゃるとおりですね。通常 のパターンは、インドから米国や英 国という動きで、その背景には英語 という言語の共通性、インドの教育 システムがアングロ・サクソン型であ ること、そして伝統な道筋であるな どがあります。私の場合は、全く異 なる状況だったのです。私が博士課 程に在籍していたときに、ESSECに 交換留学する機会を与えられ、フラ

ンスに行ったのです。これはとても 特殊なパターンでした。ラッキーだっ たのは、交換留学中にセメント業界 の巨大企業であるラファージュ社の インターンとして働く機会を得たこと と、後にルノーの会長となるカルロ ス・ゴーン氏が主導したルノーのリス トラクチャリングの研究ができたこ とです。両社のリデザイニングに関す る研究は私の博士論文に活かすこと ができましたし、この業績によって ESSECから戦略経営部門の教員と しての仕事のオファーを受けること になります。

浅川:ソム先生は、2002年にPh.D.を 取得されて以来、ずっとESSECに 在籍されています。ESSECのどん なところが気にいっておられるので しょう? 別の学校に移ろうとか、イ



2016年度MBAプログラムの科目「DKB寄附講座 企業家論:グローバル戦略とラグジュアリービジネス」の講師として来 日された、ESSECビジネススクールのアショック・ソム教授をお招きし、浅川和宏教授と対談を行いました。対談では、ソム 教授のこれまでの研究活動を中心に語っていただきました。

ンドに戻ろう等、ほかのオプション を検討しようと思われたことはな かったのでしょうか?

ソム:まず、私はアカデミックな仕事 の自由が好きなのです。そして私が 今までに在籍した学校は全て自治 組織で、総合大学の一部ではなく、 ESSECとESSECのパートナーで私 が訪問した各校も共通した自由と独 立を有しており、自分との相性のよさ を感じたわけです。 自治権のあるビ ジネススクールという環境が、私に 完璧にフィットしているのです。私の 現状のキャリアで、何か足りないとか 変化を求めたいということは、感じま せんね。ここ何年も、インドを少なく とも年に2回は訪問しています。イン ドのIIMシステムとの繋がりも保って おり、各校を定期的に訪問しています。

浅川: ソム先生の研究分野は、組織 デザイン、戦略的人材マネジメント、 グローバル戦略、そして現在のラグ ジュアリー・ビジネスへと変遷してき ました。最近の研究のトピックと将 来についてお話しいただけますか。

ソム:面白いご質問ですね。どんな テーマでも5年くらい徹底的に研究 すると、正直に申し上げれば飽きて くるのです。その分野で何が起きて いるかが分かり、論文を発表してし まうと興味が沸かなくなるのです。 我々研究者は、研究の背景や状況 を変えながらひとつの分野で、専門 化あるいは超専門化を目指します。 研究の文脈を変え、それらを突き 動かしている理論に対して、新たな 文脈を当てはめることに私は興味 を持っています。そのようなわけで、

私の研究は、セメント、自動車、通 信、航空サービス等々を対象として きました。そして現在、クリエイティ ブな産業に興味を持っています。 「創造性」をテーマに、ラグジュア リー、映画、芸術産業を研究し、そ の組織について研究していますが、 これら組織は組織デザイン、人事シ ステムとそのプロセス、グローバル 戦略、イノベーションに関するビジ ネスモデルなどの変革に取り組んで います。つまり私の頭の中では、新 たな文脈を発見したいという自分の ニーズと、特定の産業を動かしてい る理論的な土台を結びつけようとし ているのです。

浅川: 最近はどのような課程で何を 教えておられるのでしょう?

ソム: 「グローバル戦略 」、 「ラグジュ アリー・ビジネス」、「産業と戦略業 務」という上級のマネジメントコンサ ルティング科目を教えています。課 程としては、Master of Science in Management (MSc), Advanced Master (MS), MBA, Executive MBA、経営者層向けのAdvanced Management Program (AMP) やGeneral Management Program (GMP)、個別企業の社内向けプロ グラム等です。

浅川:日本そしてKBSに来られるよう

になって、相当な年月が経っているよ うに感じます。日本やKBSが気に入っ ておられるのは何故でしょうか?

ソム:日本が大好きです。食べ物、人 そして細やかさが大いに気に入って います。実は2003年頃、ESSECの新 任教員は、米国のペンシルベニア大 学ウォートン・スクール、スタンフォー ド大学ビジネススクール等の学校で 一定期間を過ごすことが奨励されて いました。これは、米国で教育を受 けていない欧州の学者のネットワー ク強化が目的でした。当時私は「戦

略とマネジメント」という科目を教え ていましたので、プロセスを形成す る戦略理論の根源を研究したいと考 えました。ご記憶にあると思います が、戦略的意図、コアコンピタンス、 ビジョンとしてのストレッチ、グロー バルな戦略的マインドセット、TQM、 「カイゼン」、自動車産業における バリューチェーンなど、全て日本発 だったのです。米国の学者とはAOM (Academy of Management)やSMS (Strategic Management Society), AIB (Academy of International Business) などの会議や学会で会っ ており、私にとっては、米国のアイビー リーグの学校に行って何をするのだ ろう、ということだったわけです。私 の同僚たちは米国で教育を受けて いたか、さもなければ米国を訪問し ました。私は教員担当のDeanに、他 の選択肢がないか尋ねたところ、今 日では40年を超える協力関係にある 慶應義塾大学を訪問してはどうかと 言ってくれたのです。私と慶應義塾 大学の関係は、6ヶ月近い慶應義塾 大学三田キャンパスの訪問でスター トしました。

浅川: 慶應義塾大学を何回も訪問さ れていますが、訪問中は何をされてど のような業績をあげられましたか?

ソム:ご想像に難くないと思います が、初回の訪問はとても新鮮な経験 でした。ただ、三田キャンパスでは 少々とまどいを感じました。商学部で は学士課程の学生しかいなかった からです。それまで、MBAレベルの 教育を担当してきましたからね。そ れで、日吉キャンパスのKBSというオ プションを検討しました。KBSを訪 問し、浅川先生をはじめ当時の教授 でいらっしゃった青井先生や矢作先 生、また姉川先生、岡田先生ほかと 知り合うことができました。浅川先



浅川 和宏教授

1985年早稲田大学政治経済学部卒業、(株)日本興業銀行勤務を経て、1991年MBA(ハーバー ド大学)。1996年Ph.D. (経営学) (INSEAD)。1995年慶應義塾大学大学院経営管理研究科 準専任講師。1997年助教授。2004年教授。同年MIT客員研究員。2005-2010年(独)経済産 業研究所 (RIETI) ファカルティー・フェロー。2011-2012年度文部科学省科学技術政策研究 所 (NISTEP) 客員研究官。米Global Strategy Journal誌のAssociate Editorをはじめ、多 くの海外ジャーナルのエディター・編集委員を歴任。2015年、アメリカに拠点を置く世界最大 の国際経営学の学会であるAcademy of International Business (AIB) (米国国際経営学 会)よりAIB Fellow (フェロー)に選出される。2015年より多国籍企業学会会長。



アショック・ソム教授

ESSECビジネススクール教授。企業経営にお けるグローバル戦略とブランド構築の相互作用、 組織のデザイン手法が企業業績に与える影響 等の研究で知られる。

1991年カルカッタ大学で学士号、1993年イン ド工科大学で地質学および1995年工学修士号 取得後、インド経営大学院アーメダバード校で Ph.D. (経営学)取得。2009年、Global MBA プログラムのAssociate DeanおよびDirector に就任。2015年、経営学部門のChairに選出さ れる。慶應義塾大学には2003年から4回にわ たって訪問。

生とはその後共著論文を発表するこ とになります。結果として過去12年 間で4回KBSを訪問しています。そ の中には、大阪で開催された高等経 営学講座で登壇し、インドについて 講演したことが含まれています。少々 逆説的ですが、インドと日本につい て語って10年経った現在、両国の協 力が盛り上がっていることを目にし ているわけです。そのほか浅川教授 とさまざまなプロジェクトで協力して 活動してきました。

浅川:今回の訪問について、お話し いただけますか?

ソム: 今回の滞在は3週間あまりで す。今回は、日本の中小・中堅企業が グローバル化のためのブランド戦略 をどう構築してきたか、を理解したい と考えています。今回の滞在は素晴 らしいです。企業訪問などしやすい 時期ですし、気候もよく、ESSEC同 窓生を訪問したり、KBSのMBAプロ グラムの授業を持ち、その合間に浅 川ゼミで話をしたりしています。

浅川:日本語はおできになるのです か?日本滞在中はどうされているの でしょう?

ソム: 単語は幾つか話せます。何と かなるものですよ。助けを借りようと した人は大概英語ができるし、とて も礼儀正しく、明るく親切に助けてく れます。私にとって、そうしたところ が、日本が他国と大いに違うところ、 歓迎されているなと感じさせてくれ るところです。

浅川:次回の日本·KBS訪問は、い つごろになりそうですか?

ソム:また、すぐ来ますよ。

ESSECビジネススクール(エセック経済商科大学院大学)

1907年創立、フランス独自の高等専門教育機関であり、高度専門 職を養成するビジネス系「グランゼコール」のひとつ。パリのふたつ のメインキャンパスに加え、シンガポールにもキャンパスを有し、学 部課程から博士課程まで約5.200人の学生が学んでいる。カリキュ ラムはパリにあるビジネススクールという特色を生かしたラグジュア リーブランドのマネジメントやファイナンス分野に強みを有し、ヘルス ケア分野にも定評がある。



EMBAが2年目に入る:グローバル視点を深める



EMBA学習指導委員 岡田 正大教授

本校のEMBAは、日本におけるエグゼクティブ教育を週末中心に行う初めての学位プログラムです。2015年4月に第1期生を迎え、さらに今年第2期生が入学してフルスケール(1年生45名、2年生39名)となり、日吉の校舎では毎週毎週熱く真剣な学びが続いています。

私が平均年齢44歳のEMBA生たちに強調するのは、ベテランマネジャーとしてこれまで業務で身につけてきた鎧をおろして、自分の素の能力と価値観に向き合うことの重要性です。EMBA入学者は、皆さん実務の世界では即断即決で経営に携わってきた強者ぞろいですが、であるからこそ、いったん立ち止まって自己の価値判断尺度に潜む様々なバイアスを客観視する機会を持っていただきたいのです。

さて、EMBAの狙いは「基本的経 営能力の学びなおし」、「超長期の持続 性の観点」、そして「地球規模の視点」です。

「基本的経営能力の学びなおし」は、 1年次のコア科目で行われます。財務管 理、会計管理、マーケティング、組織マ ネジメント、生産政策、経済・社会・企業、 総合経営、経営科学の8分野です。「超 長期の持続性の観点 は、主に入学か ら修了まで2年間断続的に続く「ビジョナ リー」科目を柱として養われます。2056 年を視野に大義ある未来を描き、それを 実現するために今企業が本業として取り 組むべきことを検討します。他科目からの 学びも常にこのプロジェクトへ注入されま す。「地球規模の視点」は様々な科目の 組み合わせで強化されます。単に科目を 英語化するだけではなく、日本以外の国 や地域におけるものの考え方や価値観 に向き合う機会を科目設計に反映させて います。



EMBA専門科目「海外フィールドB」 インド Sambudevana村



EMBA専門科目「海外フィールドB」 オランダ ハイネケン本社

■グローバル視点1

グローバル経営科目(年2回、7月と12 月、2泊3日合宿形式、英語で実施)で は、欧米アジアのトップ校から講師を招き、 人的資源管理や経営戦略、マーケティ ングなどをグローバル経営の視点から学 びます。様々なケース教材を使いながら、 外国のビジネススクール講師陣の論理と 自身の考え方を対比します。本年7月は フランスのHEC Paris (HEC経営大学 院) からピエール・ドゥソージ教授を招き、 戦略理論とグローバル化、新興国市場 における戦略などを論点として学びまし た。化粧品のロレアル、医療用インシュリ ン、航空機エンジン、食品のダノンなど、 多様な企業事例を使いながら、その成 功と失敗の原因を探索し、グローバル化 とは何かを議論しました。

■グローバル視点2

海外フィールド科目(年2回、8月と3月、 視察は英語か現地語で実施)では、十 分な事前研究をした上で発展途上国・ 先進国を調査します。今年の3月はイン ドとオランダへ二手に分かれて赴きまし た。インドでは、今まさに高成長軌道に 乗った12億人市場のハイテク産業、都 市開発、農村開発といった側面から市 場性を考察しました。オランダでは、世界 で最も古い先進国のモデルとして、国や 社会、企業活動(フィリップス、ユニリー バ、ハイネケン本社などを訪問)、世界 的競争力を持つ農業セクターが、超長 期の持続可能性をどのように組み込んで いるのかを学びました。

■グローバル視点3

「戦略執行と行動的リーダーシップ」 (1学期専門科目、英語で実施)では、 ダニエル・ガイスラー博士が日本法人社 長を務める行動科学をベースとした戦略 コンサル会社であるCLGジャパン社によ る実践的科目です。多国籍の事業環境 で、いかに戦略を実効性高く現実に実 行するのか、がテーマであり、組織メン バーの行動を変えるためのフレームワー クとメソッドが教授され、履修者はそれを 実地に実践しては結果を持ち寄ります。

こうした国際的科目を継続・充実させ、 さらなる学びを深めてまいります。



ピエール・ドゥソージ氏 Ph.D. HEC Paris教授 EMBA専門科目「グローバル経営C」を担当



ダニエル・ガイスラー氏 Ph.D. CLGジャパン代表 EMBA専門科目「戦略執行と行動的リーダーシップ」を担当

セミナー開催報告

■ 第61回高等経営学講座開催報告

2016年7月26日(火)~8月3日(水)



第61回高等経営学講座は7月26日から9日間の日程でスタートしました。今回のテーマは「激動の時代だからこそ、自らの『武器』を再発見する」で、22業種・51社のトップ層91名の方々にご参加いただきました。

初日の清家篤塾長による講演「バランスのとれた雇用、社会保障制度を構築

するためのビジョン」に続き、2日目から経営戦略、マーケティング、組織マネジメントなど多様な分野にわたり毎日2つのケース討議が行われました。

中日の5日目は前半の学びを振り返り、 株式会社 経営共創基盤 (IGPI)の冨山 和彦代表取締役CEOを迎え、「経営者 は本当は何をする人なのか? ~グローバ ル化、第4次産業革命を生き抜くリーダー シップ~」と題し「あれか、これか」の意 思決定の重要性をご講演頂いた後、1時 間半にもわたるQ&Aが交わされました。

最後の3日間は、競争戦略およびネットワーク理論分野の大家であるハーバード・ビジネス・スクールのバーラット・アナンド教授が加わり、多角化における内部プロセスの重要性、デジタル化時代のビジネス

イノベーションについてケース討議が行われました。最終日には「コンテンツの罠:メディアのデジタル・トランスフォーメーションから得た教訓」というテーマで、「代替」「補完」という視点から「自社の武器」を見直す重要性につき、多くの事例を踏まえながら熱く語っていただきました。参加者の満足度も非常に高かったと思います。

なお同セミナー後に三田キャンパスで 開催されたアナンド教授の講演会も大盛 況のうちに終了しました。

> 第61回高等経営学講座 主管 教授 清水 勝彦

■ 特別公開講座開催報告

2016年8月3日(水)

"The Content Trap"

2016年8月3日(水)午後7:00から三 田キャンパス北館ホールに参加者約200 名を迎え、ハーバード・ビジネス・スクール のバーラット・アナンド教授による講演が行 われました。まず、KBS河野研究科委員 長から、経済学の「代替財」「補完財」 の概念を競争戦略に応用した新しいネットワーク理論の提唱者であるアナンド教 授の紹介が行われました。

同教授は講演で、新聞・音楽・出版など、 今まさに時代の変化の波に翻弄されているように見える業界が、実は長年続く技術の地殻変動への対応を迫られているという共通点を有することを明らかにし、具体例として欧米の新聞業界で業績の明暗 を分けた鍵がなんだったのか、中国のインターネット複合企業テンセント社は、国民1人当たりGDPが米国の10分の1の国において、大部分が無料のオンラインサービスからどうやって莫大な利益をあげているのかなどを挙げ、デジタル化時代に産業構造や市場構造の変化を読み解くための方法論として「ネットワーク効果」の考え方を解説しました。講演後、受講者から「ネットワーク効果」と「コアコンピタンス」の関係、「製品クオリティ」と「ユーザーベネフィットのクオリティ」の違いなど、講演の核心に関するたくさんの質問がアナンド教授に出され、熱心な議論が展開されました。

今回の講演は、アナンド教授がKBS主



催「第61回高等経営学講座」の講師として来日したことにより実現したものです。なお、今回の講演内容は"The Content Trap: Lessons from the Digital Transformation of Media"と題し、本年10月に米国でRandom House社から出版される予定です。

日本ビジネススクールケースコンペティション開催報告



7月17日(日)、日吉キャンパス、藤原記 念ホールにて、日本ビジネススクールケー スコンペティション(以下「JBCC」)本 選大会が開催されました。

JBCCは2010年に国内ビジネススクー ルのネットワーク拡充、教室外での学びと 実践を通じ国内ビジネススクールの価値 を向上させるべく発足し、代々国内ビジネ ススクール生で構成されるJBCC実行委 員会が主催しています。

JBCC2016には全国から21校165チー ムがエントリーし、大会のために作成さ れた「アパレル企業の再興」のオリジナ ルケースを使っての予選を勝ち抜いた20 チームが本選大会に駒を進めました。 KBSからは24チームがエントリーし、M38 からは中島チーム、M39からは王チーム、 安藤チーム、藤居チームの4チームが、 本選大会のセミファイナルに出場されまし た。そして、本校から、見事優勝チーム が選出されるという6年ぶりの悲願を達成 いたしました。

優勝したM39 王チームの代表である 王曦寧さんから、「JBCCを通じて、学び の多い2か月を過ごすことができました。 今後も多くの学生がIBCCを通じて新た な学びに触れることを願っております。」と

いうコメントをいただきました。

また、シーバス・リーガル18年イノベー ション賞を受賞したM38 中島チーム代表 の中島直寛さんから、「KBSのレベルが 客観的に評価される結果になり嬉しいで す。そのプロセスには何より本研究科の 素晴らしい先生方と高いレベルで半学半 教できる仲間がいたからだと思います。」 というコメントをいただきました。

ケースコンペティションは日々の学びの 内容を活かしながらチームで議論を重ね、 実践的なアウトプットを競うと同時に他大 学院との交流も含めた貴重な場として引 き続き積極的に活用していければと思い ます。

修士課程2年 (M38) 松本 喜信

2016年度「アジアビジネス・フィールドスタディ | 開催報告



今回で5回目の開催となるアジアビジネ ス・フィールドスタディ (CKJ) は、韓国・ ソウルにて7日間にわたって行われまし た。清華大学・KAIST・KBSの3校から 総勢36名のMBA生が参加する本プログ ラムでは、各校2名ずつ計6名のグループ を作り、韓国企業のビジネスモデルや戦 略の分析を行いました。

企業訪問では創業者と直接議論する 機会も設けられ、成長を続ける企業の勢 いや創業者の熱意を直接感じることがで きました。どの企業からもCKIを歓迎する 雰囲気が感じられたことが嬉しく、帰り際 にお土産まで頂き、最終日のプレゼンに 向けてモチベーションが高まりました。そし て企業訪問で得た情報をもとに、さらにグ ループ内で議論を重ね、更なる発展に向 けた提案を練り上げていきます。

グループ内の議論は英語で行われます が、参加者全員が英語を流暢に話せる 訳ではありません。しかし、言葉が通じな いときは作図をする等の工夫をし、相手 に伝える努力を怠りませんでした。また、 質の良い議論をするためには、各国の価 値観や文化を尊重しつつ、忍耐力をもっ て接する姿勢が重要であると学びました。

現在、中国・韓国・日本の関係性は複 雑になっておりますが、7日間の濃密な時 間を共に過ごしたことで、バイアスを取り 払い、新しい友人を得ることができました。 また、CKIを通じ、異なる文化・価値観を 持つ相手と、いかに良い関係性を構築し、 協力し、質の良いアウトプット行っていくか という実践を積むことができ、非常に有益 な機会となりました。

修士課程2年(M38) 金田 有加



私は2016年4月に、経営環境領域の准 教授として着任しました。専門は医療経済 学、行動経済学、医療政策です。学部は 医学部出身で、臨床現場は研修医として2 年間経験しました。その後すぐ経済学の大 学院に進学し、修了後は社会科学系の教 員として教育・研究に従事しております。

なぜ、医師なのに経済学をするのか聞 かれることがあります。実家が開業医をして いたせいか、以前より医療制度や医療費 のことに興味がありました。高齢者や被用 者本人は自己負担が無料の時代でしたの で、朝早く診療所の前に並ぶ高齢の患者 さんの行列に妙に納得したのを覚えていま す。医学部の学生時代も分子生物学など 生命科学として医学より、病院で医師が何 を考えて働き、どのように医療サービスが生 産されているのかという医療ばかり見ていま した。

私が研究者として扱った最初のテーマ は、医師は科学的な根拠よりも自分の金銭 的な利益を優先するかという問題でした。 医師の処方行動を分析したところ、開業医 のように処方が自分の金銭的利益に直結 する場合であっても、科学的な根拠を越え た無駄な処方をするものはそれほど多くあり ませんでした。その後も、医療を供給側か ら分析する研究を続けました。医師が就業 先である医療機関を選択するのに、給与 面を重視するのか、それとも医療技術向上 や研究の機会といった(少なくとも短期的 には) 金銭と関連しなの要素を考慮するの

かといった医師のキャリア選択についての 研究や、様々な医療技術について、健康 を改善するのにどの程度費用がかかるか、 という医療の経済評価 (費用効果)の研 究も行っています。

医療供給に関する研究でわかったのは、 定性的には医師は常にお金で動くわけで はないという当たり前のことでしたが、定量 的な分析手法で金銭と金銭以外の要素を 比べてみると、金銭以外の要素がどの程 度の価値を持っているかを金銭で評価でき るようになります。当然ですが、金銭以外の 要素を整備する、たとえば研究の機会を医 師に与えることにも費用がかかります。対策 ごとの費用を比べることで、医師不足に悩 む病院が医師を募集するときに給与を上げ るのと、出張機会の確保や研究交流など の機会作りにお金をかけるのでどちらの費 用効果が高いかということもわかってきます。

医療の供給側だけでなく、需要側の研 究も行ってきました。たとえば、喫煙者に対 しては、増税によるたばこの値上げ、公共 の場での喫煙に対する罰則、健康被害へ の教育などの対策がなされています。どの 対策が喫煙率の減少に効果的かについ て、将来やリスクに対する消費者の選好の 違いに基づいて定量的な評価を行いまし た。こちらも、健康改善や医療費の変化に 対する将来にわたる影響を示すことで、ど の政策が最も効率的かを示すことができま

少子高齢化が進む将来、医療や介護

などの健康を維持・改善するサービスに対 する需要は増大するばかりです。公平性 を重視した社会保障を重視しながらも、厳 しい財政の中で効率的な資源配分を行う 必要があります。日本の社会保障は企業 の関与も大きく、若年層への医療は人的 資源の生産性にも関係します。これからも 行政や企業に対して、医療や介護に関す る意思決定を行うためのエビデンス(根 拠)を経済学の立場から作り続けようと考 えています。

後藤 励 (ごとう れい)

1998年京都大学医学部卒業、医師資 格取得。神戸市立中央市民病院での内 科臨床研修の後、京都大学大学院経 済学研究科にて医療経済学の研究に従 事。博士(経済学)取得。2005年甲南 大学経済学部講師、2007年同准教授。 2012年京都大学白眉センター特定准教 授。2016年より慶應義塾大学大学院経 営管理研究科准教授。



メーカー Aがある部品を購入しようとしてお り、その見積りの提出をサプライヤー2社に求 めたとしましょう。ここでは、考察対象を簡単 にするため、部品1単位のみが取引されると します。メーカー Aはその部品の製造技術に ついて不確かな情報しか持ち合わせておら ず、自社生産することができません。各サプラ イヤーの部品生産コストはそのサプライヤーし か知りませんが、どちらのサプライヤーがその 部品を生産しても、その品質は甲乙つけがた いため、(複数項目に関する総合評価方式で はなく) 見積額(部品の価格)のみで発注 先が決められるとします。このとき、より低い見 積額を提出したサプライヤーがその部品の発 注を受け、そのサプライヤーに対して見積額 通りの支払いがなされる場合、その発注先と 支払額の決定方式を「逆第一価格入札」 と呼ぶことにします。

相見積りの結果、サプライヤー A1がより低 い見積額を提出したとしましょう。このとき、メー カー Aが、もう一方のサプライヤー A2に対し て「A1の見積額よりも低い支払額でその部 品を納入してくれるならば、A2に部品を発注 する」と伝え、支払額に関する再交渉を始め たとします。製造コストよりも多い支払いがなさ れるのであれば、A2はこの交渉に応じるでしょ う。こうなると、A1も黙ってはいないでしょう。 その結果、たとえ部品の発注を受けるのは元 のA1であったとしても、支払額はA2の製造コ ストよりも僅かに低い額にまで低下するかもしれ ません。このような値下げ交渉はbid shopping と呼ばれ、メーカー Aにとってはコスト削減とい う意味で理にかなった行動かもしれません。

しかし、メーカー Aにはライバルメーカー B がいて、Aと同様に、サプライヤー2社に相見 積りをとり、bid shoppingによって部品の発注 先と支払額を決めていたとしましょう。メーカー AとBの製品の顧客も、考察対象を簡単にす るため、AかBどちらかの製品1単位のみを購 入するとします。よって、各サプライヤーにとっ て、見積りを提出したメーカーが顧客に製品 を購入してもらうことがなければ、サプライヤー は部品の発注は受けられません。状況はライ バルメーカーがいない場合とは異なります。各 メーカーの生産費用は両メーカーにとって互 いに既知であり、メーカー2社の顧客は逆第 一価格入札によって製品の発注先と支払額 を決めるとします。このとき、どちらかまたは両 方のメーカーについて、そのサプライヤーの生 産コストに幾分の開きがあると、4社の中で最 も低いコストで部品を生産できるサプライヤー がその部品の発注を受けることなく、そのため に顧客は高い買い物をせざるをえなくなってし まうことがあります。顧客、メーカー、サプライ ヤーの間でなされる製品と部品の取引から発 生する利潤の合計は、両メーカーともに逆第 一価格入札を採用した場合に比べて、低く なってしまうことも (数理的に)証明できます。

この製品の取引に関する権限をあなたが 持っているならば、つまり、あなたが前述の状 況における顧客であったならば、各メーカーと そのサプライヤーの取引に対して、どのように 対応するでしょうか?メーカーの取引に関して どのような情報を得られるか、各当事者たち がこの状況と他の意思決定者の推論をどの ように認識しているかに注意しながら、考えて

みてください。それら次第で、bid shoppingと は異なる行動をサプライヤーが取りうることも お忘れなく。考え方も一つとは限りません。

以上では、ゲーム理論という応用数学の 一分野における考え方を簡単な取引状況に 適用してみました。ゲーム理論は実際の制度 や組織において起こりうることを発見するため の装置であると述べたのは、先ごろ亡くなら れた青木昌彦さんでした。その理論構成にお いて、ゲーム理論は非協力ゲームと協力ゲー ムに大別されます。前述の状況を例にとると、 各企業が、他社の行動を考慮しつつ、自らの 利潤を最大にすると想定するのが(標準的 な) 非協力ゲームであり、顧客、メーカー、サ プライヤーの全体、あるいは一部の利潤の合 計を関係者間でどのように分配するかを考え るのが協力ゲームです。発見装置としては、 青木さんは両理論を区別されなかったように 思えます。私にとっても「ゲーム理論は一つ」 です。

渡邊 直樹 (わたなべ なおき)

1994年京都大学経済学部卒業, 1999 年京都大学大学院経済学研究科博士 課程所定単位取得, 京都大学大学院経 済学研究科·経済研究所COE研究員. 一橋大学大学院経済学研究科講師, 筑 波大学システム情報系准教授を経て. 2016年慶應義塾大学大学院経営管 理研究科准教授. Ph.D. in Economics (Stony Brook University, the State University of New York, 2003)

2015年度

教 授

浅川 和宏

- ▶ Kazuhiro Asakawaほか. Informed headquarters, legitimized subsidiary, and reduced level of subsidiary control in international R&D management. Research in Global Strategic Management. 2016, vol. 17, no. 1.
- ▶ Kazuhiro Asakawaほか. Ğestionar centros mundiales de innovacion" (Managing hubs for global innovation). Harvard Deusto Business Review. 2015, no. 248.
- ト Kazuhiro Asakawa(まか: Corporate involvement, R&D collaborations and performance. Strategic Management Society Annual Meetings. 2015,
- ト Kazuhiro Asakawaほか. Internal embeddedness and R&D knowledge sourcing. SIE Workshop. 2015.
- ▶ Kazuhiro Asakawa . Integrating East Asian centers of innovation into global technology networks: The case of Japanese MNCs and Japan as a host country. Academy of Management. 2015.
- Kazuhiro Asakawaほか、Absorbing or leaking critical knowledge. Academy of Management. 2015.
- Kazuhiro Asakawa(まか、Internal coordination systems and dynamic capabilities". European Group of Organization Studies. 2015.
- ▶ Kazuhiro Asakawa. Reconsidering "local-for-global" innovation in today's IB context: Overcoming Ethnocentricity. Academy of International Business. 2015.
- ▶ Kazuhiro Asakawa(まか. Profitability and competitiveness of US and Japanese defense contractors: Implications for IB research. Academy of International Business, 2015.
- ► Kazuhiro Asakawa(まか. Exploring the hidden effect of internal coordination systems on sensing technological opportunities. Strategic Management Society Special Conference. 2015.

姉川 知史

- ▶ Tomofumi Anegawa. Geographical Variation and Convergence of Health in Japan —Medical Resources, Services, and Outcome—. 日本経済学会. 2015.
 ▶ Tomofumi Anegawa. "Time Differences of the World Drug Introduction—Why was Japan behind the Worldwide
- Convergence?". International Health Economics. 2015.
- ▶ Tomofumi Anegawa. Geographical Variation and Convergence of Health in Japan—Medical Resources, Services, and Outcome. European Economic Association.

井上 哲浩

- Akihiro INOUE. Another Approach to develop Marketing Strategy for Inference-Based Products Based upon Symbol Grounding Theory. INFORMS Marketing Science Conference. 2015
- ▶ 井上 哲浩ほか. AR技術を用いたマーケティング・コミュニケーションが態度・意図形成に与える効果に関する研究. マーケティング・ ーナル(日本マーケティング学会). 2015, vol. 35, no. 2, p. 72-88.
- ▶井上 哲浩ほか. 物語構造-受け手における登場人物の行動理解と感情的反応. 日本商業学会第65回全国研究大会. 2015.

磯辺 剛彦

▶ 磯辺 剛彦ほか. 第3章企業のリスク行動と予測能力による財務成果への影響」. 社会関係資本の機能と創出. フロンティア実験社会 科学4. 勁草書房. 2015.

太田 康広

- ▶太田 康広. 理論と実証の融合. 日本会計研究学会年次総会統一論題第1会場. 日本会計研究学会. 2015.
- ▶ 太田 康広ほか. ビジネス・アカウンティング. 中央経済社. 2016.

河野 宏和

- ▶ Hirokazu Konoほか. Method and Procedure for Economic Evaluation of Improvement Activities. Industrial Engineering & Management Systems. 2015, vol. 14, no. 2, p. 122-128
- ト Hirokazu Konoほか. Study on Standstill Conditions in Kaizen Activity. Proceedings of the Asia Pacific Industrial Engineering & Management Systems Conference. 2015, p. 1637-1642.
- ▶河野 宏和ほか、IEパワーアップ選書 現場が人を育てる。日刊工業新聞社、2015

坂爪 裕

▶ 坂爪 裕. 改善活動のマネジメント. 慶應義塾大学出版会. 2015.

高橋 大志

- ▶ Hiroshi TAKAHASHI. Analyzing the Influence of Market conditions on Financial Markets through Social Simulation. Agent and Multi-Agent Systems: Technologies and Applications, Smart Innovation, Systems and Technologies. 2015, vol. 38, p. 417-426
- ▶ Hiroshi TAKAHÁSHI(まか. Estimating financial words' negative-positive from stock prices. 21st Computing in Economics and Finance. 2015.
- ► Hiroshi TAKAHASHI. Analyzing the validity of smart beta in financial markets through agent-based modeling. IEEE The 39th Annual International Computers, Software & Applications Conference, the 2nd International workshop on Social Services through Human and Artificial Agent Models. 2015.
- ト Hiroshi TAKAHASHIほか. The Propagation of Bankruptcies of Financial Institutions an Agent Model of Financing Behavior and Asset Find Still TAKARAShikが. The Propagation of Barikt upicles of Financial institutions — all Agent Model of Financial Genavior and Asset Price Fluctuations. The 9th International Workshop on Agent-based Approach in Economic and Social Complex Systems. 2015.

 ► 高橋 大志. テキスト情報による金融資産価格評価 ~データ解析とシミュレーション分析~、計測と制御、2016, vol. 5, no. 1.

 ► 高橋 大志ほか. 金融市場ニュースの分散表現学習による辞書作成と金融市場分析、2015年度 人工知能学会全国大会(第29回). 2015.

 ► 高橋 大志ほか. Republication によるニュース記事評価に関する研究. 日本ファイナンス学会 第23回大会. 2015.

 ► 高橋 大志ほか. Deep Learning によるニュース記事の評判分析、第43回ジャフィー大会(2015年度夏季). 2015.

- ▶ 高橋 大志ほか. 情報セキュリディと企業価値. 計測自動制御学会 第9回社会システム部会研究会. 2015
- 高橋 大志ほか. 増配と自社株買いの情報効果. 第3回経営課題にAlを! ビジネス・インフォマティクス研究会. 2015.
- ▶ 高橋 大志ほか. 金融機関のALM運営を考慮した破綻伝播のエージェントモデル. 第3回経営課題にAlを! ビジネス・インフォマティクス研究会. 2015.

中村 洋

- ト Hiroshi Nakamuraほか. New NHI Drug-pricing System in Japan: Incentives for R&D and Budget Neutrality. International Journal of Economic Policy Studies. 2015, vol. 10, pp.1-12.
- ► Hiroshi Nakamuraほか. New NHI Drug Pricing System in Japan: Incentives for R&D and Fiscal Equilibrium. International Health Economics Association Congress. 2015.
- ト Hiroshi Nakamuraほか. Differing Impact of Internal Coordination Mechanisms on Opportunity Sensing Capability. Strategic Management Society. 2015.
- Hiroshi Nakamuraほか. Absorbing or Leaking Critical Knowledge. Asia Academy of Management. 2015.
 Hiroshi Nakamuraほか. The Japanese firm system in evolution. Academy of Management. 2015.
- ▶ 中村 洋ほか. 新薬創出等加算のメリットの要因分析とシミュレーション分析に基づく考察. 医療と社会. 2015, vol. 25, no. 2, p. 205-220.
- ▶中村 洋ほか. 新薬創出等加算の医療保険財政中立性に関するシミュレーションによる経済分析. 医療経済学会. 2015.

- ▶ 中村 洋ほか. オープン化戦略の成果と課題. 有斐閣. 2016.

林 高樹

- ▶ Takaki Hayashi. Empirical performance of alternative lead-lag measures for high-frequency, cross-market stock price movements. Asymptotic Statistics and Computations. 2016.
- ▶ Takaki Hayashi. Empirical performance of alternative lead-lag measures for high-frequency, cross-market stock price movements. Statistics for Stochastic Processes and Analysis of High Frequency Data IV. 2016.
- ▶ 林 高樹. 国内高速3株式市場間の注文板形成の先行遅行関係分析. ジャフィー・ジャーナル(日本金融・証券計量・工学学会). 2016,
- ▶ 林 高樹. 国内高速3株式市場の高頻度注文板データ分析. 統計関連学会連合大会. 2015.

- ・ 林 高樹、国内高速3市場間の注文板形成の先行遅行関係分析、第23回日本ファイナンス学会年次大会、2015. ・ 林 高樹、国内高速3株式市場における注文板データの統計解析、第15回 人工知能学会 金融情報学研究会 (SIG-FIN). 2015. ・ 林 高樹、国内株式市場の高頻度注文板データ分析、第4回金融シンポジウムファイナンスリスクのモデリングと制御 Ⅲ」統計数理研 究所 リスク解析戦略研究センター. 2015.

余田 拓郎

▶ 余田 拓郎. BtoBブランド: これまでの研究と課題、そして実践に向けて. 慶應経営論集. 2015, vol. 32, no. 1.

准教授

小幡 績

▶ 小幡 績. 円高・デフレが日本を救う. ディスカヴァー . 2015.

後藤 励

- ト Rei Gotoほか. A discrete choice experiment studying students' preferences for scholarships to private medical schools in Japan. Human Resource in Health. 2016, vol. 14, no. 4.
- ト Rei Gotoほか. Cost-effectiveness analysis of smoking cessation interventions in Japan using a discrete event simulation.
- Applied Health Economics and Health Policy. 2016, no. 14, p. 77-87.

 Rei Gotoほか. Cost-effectiveness analysis of screening for age-related macular degeneration in Japan: a Markov modeling study. PLoS ONE. 2015, vol. 10, no. 7.
- Rei Gotoほか. Behavioral economics survey of patients with type 1 and type 2 diabetes. Patient Preference and Adherence. 2015, no. 9, p. 649-658.
- ▶ Rei Gotoほか. Why screening rates vary between Korea and Japan Differences between two national healthcare systems. Asia Pacific Journal of Cancer Prevention. 2015, vol. 16, no. 2, p. 395-400.
- ト Rei Gotoほか. Evaluating the Effect of Japan's 2004 Postgraduate Training Program on the Spatial Distribution of Physicians. Human Resource in Health. 2015, vol. 13, no. 5.
- ▶後藤 励ほか. 内視鏡胃がん検診プログラムへの参加要因. 厚生の指標. 2015, vol. 62, no. 2, p. 1-6.

坂下 玄哲

- ▶ Mototaka Sakashitaほか. Building Relationships with Opinion Leaders and Seekers? The Role of Content on a Brand's Website. Proceedings of the 4th International Consumer Brand Relationships Conference. 2015.
- Mototaka Sakashitaほか、Information Search Behavior on a Brand Website. Proceedings of the international communication
- association (ICA) annual conference. 2015.

 Mototaka Sakashitaほか. The Characteristics and Information Search Behavior of Opinion Leaders and Opinion Seekers. European Marketing Academy Annual Conference Proceedings. 2015.

林 洋一郎

- ▶ Yoichiro Hayashiほか. Regulatory fit in framing strategy of parental persuasive messages to young children. Journal of Applied Social Psychology. 2015, vol. 45, no. 5, p. 253-262. ▶ 林 洋一郎ほか. 第11章組織と公正」紛争・暴力・公正の心理学. 北大路書 房. 2016.

村上 裕太郎

- ► Yutaro Murakami. Tax Compliance with Strategic Auditors: An Experimental Study. Proceedings of the 2015 American Accounting Association Annual Meeting. 2015.
- Yutaro Murakami. Tax Compliance with Strategic Auditors: An Experimental Study. Proceedings of the th Asian Pacific
- Conference on International Accounting Issues. 2015. ▶ 村上 裕太郎ほか. タックス・コンプライアンス実験研究の現状と展望. 同志社商学. 2016.
- ▶ 村上 裕太郎. 脱税行動の実験的検証. 企業会計. 2016.
- ▶ 村上 裕太郎. Book-Tax Conformityに関する研究. 企業会計. 2016.
- ▶ 村上 裕太郎ほか. ビジネス・アカウンティング. 中央経済社. 2016.

山本 晶

- ► Hikaru Yamamoto. Measuring the Value of Customer Engagement in Mobile Social Networking Services. Marketing Science Conference. 2015.
- ▶山本 晶ほか. ウェブ・マーケティング. ケースに学ぶ マーケティング. 有斐閣. 2015, p. 269-286.
- ▶ 山本 晶ほか. 消費者の自発的参加行動を促すメカニズムに関する考察. 従業員と顧客の自発的貢献行動. 多賀出版. 205, p. 111-126.

専任講師

市来嵜 治

- Osamu Ichikizakiほか. Method and Procedure for Economic Evaluation of Improvement Activities. Industrial Engineering & Management Systems. 2015, vol. 14, no. 2, p. 122-128.

 ▶ 市来嵜 治ほか. 3DCADデータを用いた大物多部品製品の組立ライン設計法についての提案. 公益社団法人日本経営工学会平成27
- 年度日本経営工学会秋季大会予稿集. 2015, p. 70-71.
 ▶ 市来嵜 治ほか. 設計変更・ライン変更のための作業時間のバラツキの分析. 公益社団法人日本経営工学会平成27年度日本経営工学 会秋季大会予稿集. 2015, p. 72-73.
 ▶ 市来等 治にか. 組付けに着目した有効な組立順序導出法の研究. 公益社団法人日本経営工学会平成27年度日本経営工学会秋季大
- 会予稿集. 2015, p. 74-75.

木村 太一

▶ 木村 太一ほか. 管理会計研究における形成型尺度の利用の現状: 構成概念の測定モデルの選択. メルコ管理会計研究. 2015, vol. 8,

替助員

KBSは開校以来、時代をリードするビジネスリーダーの養成と、その ために用いられるケース教材の開発に努力してまいりました。このよう な活動資金に、私共のビジネス教育活動の意義をご理解いただいた 賛助員の方々から納入していただく賛助費を有効に活用させていた だいております。

また、今後もKBSは、グローバルな視点と専門知識とを兼ね備え た、社会をリードする「マネジメントのプロフェッショナル |の育成を目指 し、全力を傾けていく所存でございます。

このような事情に鑑み、KBSでは賛助員制度の拡充・強化に努 めております。一層のご支援、ご協力をお願い申し上げます。

なお、賛助員に対しては、KBSの開催する特別講演会等へのご招 待などの特典をご用意しております。また、各種定期講座につきまして は、所定の割引を行っております。

株式会社カネカ

クレコンリサーチ&コンサルティング株式会社

スルガ銀行株式会社

セイコーホールディングス株式会社

積水化学工業株式会社

中外製薬株式会社

株式会社東芝

株式会社野村総合研究所

久光製薬株式会社

富士通株式会社

丸紅株式会社

三木プーリ株式会社

株式会社三越伊勢丹

三菱重工業株式会社 株式会社守谷商会

(五十音順 2016年8月現在)

賛助員募集要項

- 1. 賛助会費
- 一口 年額 30万円
- 2. 賛助員に対する特典
- (1) プログラム受講料割引
 - 一口当たり1名様、以下全プログラムに10%割引にてご受講いただけます。
 - * 高等経営学講座(7月または8月開講)
 - * 経営幹部セミナー (9月・11月開講)
 - * その他当スクール主催の各種セミナー
- (2) 週末集中セミナー 無料参加
 - 一口当たり1名様、週末集中セミナー1コースに無料にてご受講いただけます。
- ※ 特典 (1) (2) の併用も可能です
- ※ 賛助会費特典は、入会年の年度末 (3月末日) まで有効です

KBS運営募金について

KBS運営募金につきましては、沢山の方々より温かいご支援を賜りまして、 心より御礼申し上げます。お蔭様で多くの方々よりご寄付を頂戴しております。 皆様のご協力に感謝し、ご寄付をいただいた方のご芳名を50音順にて 掲載させていただきます。

KBS運営募金は現在も引き続き募集しております。これからもKBSへの一 層のご支援とご協力を心よりお願い申し上げます。

KBS寄付担当

KBS運営募金の活用実績

皆様からいただいたご厚志は、新たなプログラムの準備広報費、その準備 に当たる人件費、広報費などの経常的な支出を中心に、残余を研究・教育 活動の充実に活用させていただいております。

今後も皆様からのご指導・ご支援を賜りながら、KBSの長期的な発展の ための新たな取り組みに挑戦してまいります。

寄付者ご芳名

浅利 恒太 様 セントラル自動車技研株式会社 様 他匿名 3名 (2016年7月迄受付分)

募金要項 (一部抜粋)

募金名称: KBS運営募金

募集単位: 法人 一口5万円(一口以上)

個人 一口1万円 (一口以上)

振込方法: 個人の方:クレジットカードによる振込

上記以外: 寄付申込書による振込

お問合せ先

KBS寄付担当 (寄付用資料のお問い合わせ)

Email:donation@kbs.keio.ac.jp Tel:045-564-2440 慶應義塾基金室 (領収書発行等、寄付後のお問い合わせ)

Tel: 03-5427-1717

慶應義塾大学ビジネス・スクール 〒223-8526 神奈川県横浜市港北区日吉4-1-1 http://www.kbs.keio.ac.jp/

KBS1962

KBS REPORT 2016 Vol. 1.3